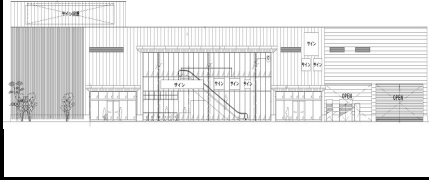


CASBEE[®]-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	スーパーマルハチ硯町店	階数	地上2階
建設地	兵庫県明石市硯町1丁目33番2	構造	S造
用途地域	近隣商業地域、準工業地域、準防火地域、法22条地域	平均居住人員	500人
地域区分	6地域	年間使用時間	5,110時間/年(想定値)
建物用途	物販店,工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年6月 予定	評価の実施日	2020年11月24日
敷地面積	6,977 m ²	作成者	寺川幸子
建築面積	3,813 m ²	確認日	2020年11月24日
延床面積	7,077 m ²	確認者	定森純一



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)								
<p>BEE = 1.0 ★★★★★</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ BEE=1.0 C: ★</p>	<p>☆☆☆☆☆</p> <p>標準計算</p> <table border="1"> <tr> <td>①参照値</td> <td>322 (kg-CO₂/年・m²)</td> </tr> <tr> <td>②建築物の取組み</td> <td>276</td> </tr> <tr> <td>③上記+②以外の</td> <td>230</td> </tr> <tr> <td>④上記+</td> <td>184</td> </tr> </table> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです</p>	①参照値	322 (kg-CO ₂ /年・m ²)	②建築物の取組み	276	③上記+②以外の	230	④上記+	184	<p>Q1 室内環境: 2.7 Q2 サービス性能: 3.1 Q3 室外環境(敷地内): 3.0 LR1 エネルギー: 2.7 LR2 資源・マテリアル: 3.3 LR3 敷地外環境: 3.2</p>
①参照値	322 (kg-CO ₂ /年・m ²)									
②建築物の取組み	276									
③上記+②以外の	230									
④上記+	184									

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p>Q 環境品質 Qのスコア = 2.9</p>		
<p>Q1 室内環境 Q1のスコア = 2.7</p>	<p>Q2 サービス性能 Q2のスコア = 3.1</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 3.0</p>
<p>LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.0</p>		
<p>LR1 エネルギー LR1のスコア = 2.7</p>	<p>LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 3.3</p>	<p>LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.2</p>

3 設計上の配慮事項		
<p>総合 スーパーマルハチの新店舗工事</p>		<p>その他</p>
<p>Q1 室内環境 良好な室温を確保する設備を備え、快適性の向上に努めている。</p>	<p>Q2 サービス性能 給排水配管に長寿命材を採用。</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内) 外構緑化、建物緑化を多く計画し、室外環境へ配慮している。</p>
<p>LR1 エネルギー LED照明設備など高効率設備により、省エネルギー性に配慮している。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル 省水型便器や自動水栓などを採用し、節水に努めている。 グリーン購入法調達品目を3種採用し、非再生資源の使用削減に努めている。</p>	<p>LR3 敷地外環境 光害対策チェックリストおよび広告物照明に関する配慮事項の過半を満たしている。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される